

背景:朝焼けの「あいち健康プラザ」

# 大府市における 気になるお子さんへの子育て支援

愛知県 大府市  
健康福祉部 児童課

## 《大府市の概況》

- 人口: 84,500人
- 面積: 33.68km<sup>2</sup>

大府市  
Obu



※ 市内には、五輪メダリスト、レスリング、アテネ・北京の吉田沙保里、伊調姉妹の練習する中京女子大学と、柔道、バルセロナの吉田秀彦、アテネ・北京の谷本歩実の練習した大石道場があります。

今夏は甲子園に公立の大府高校が  
出場しています。

- 市制: S45.9.1
- 健康都市づくり  
S62 健康づくり都市宣言  
H18 WHO健康都市連合加盟

## 《児童福祉施設》

- 保育園: 市立13、私立1
- 幼稚園: 私立4
- 児童センター: 8(各小学校区)  
児童単独2、老人複合6
- 子育て支援施設: 1  
子どもステーション
- 障がい児通園施設: 1  
発達支援センター(指定管理)

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

# 《大府市次世代育成支援対策行動計画》

〈サブタイトル〉

未来へのかけはし渡る 子どもの笑顔

みんなでつくる 子育て応援都市 おおぶ

## 《大府市の子育て支援－経済的支援》

- こども医療費の無料化(中学生まで入院含)
- 保育料第三子無料化(3歳未満児)
- 保育園同時通園割引
- 幼稚園就園助成
- 妊産婦・乳児健診の無料化(妊婦14回、産婦1回、乳児2回)
- 不妊治療費補助(対象額の1/2で上限10万円)

大府市における気になるお子さんへの子育て支援



# 《大府市の子育て支援—事業・相談等支援》

- 子どもステーション

親子自由来館、子育て広場、情報紙発行、乳幼児育児相談、育児支援  
家庭訪問、育児講座、子育て(自主)サークル、0歳児を持つ親の交流  
会、多胎児交流会、パパ交流会、プレママ交流会、ペアレントトレーニ  
ング、親子育成支援教室、ファミリーサポート

- 児童(老人福祉)センター

自由来館、自由参加あそびサークル、こどもクラブ(講座)、ファミリークラ  
ブ(親子サークル)、子ども家庭相談、子ども体育教室

- 保育園

0歳児保育、12時間保育、一時的保育、園開放、園庭開放、親子半日体  
験入園、子育て相談

- 放課後児童育成クラブ : 各小学校区に配置(6年生まで)

- 子育てガイドブックの配布 : 中学生以下のお子さんを持つ世帯

- 家庭児童相談(虐待防止)

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

0歳児交流会



子どもステーションの事業



子育て講座



多胎児交流会(さくらんぼの会)



パパ交流会

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

# 《気になるお子さん等への具体的支援策》

## 〈継続事業〉

- 発達支援センター「おひさま」での母子通園、単独通園及び早期療育事業
- 市立保育園(13園)全園での障がい児の受け入れ
- 放課後児童育成クラブでの障がい児の受け入れ
- 小中学校での特別支援員、特別支援学級補助員、スクールライフサポーターの配置

## 〈新規事業〉

- 親子育成支援事業「ジョイジョイ」の実施(気になるお子さんの生活習慣獲得促進事業) 平成20年度～
- 国のモデル事業を活用したペアレントトレーニングの実施 平成19年度～
- 個別の教育支援計画「すくすく」の実施 平成19年度～

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

## 《大府市における気になるお子さん支援の経緯》

- 昭和49年度 障がい児保育の開始  
県等の要請により希望者のある園で実施、後に全園で実施
- 昭和50年度 精神薄弱児通園施設「大府学園」開所  
身辺自立に必要な基本的な生活能力や環境に対応する適応性を養い、知的技能を体得させるため
- 昭和56年度 親子療育活動「桃山教室」開始  
障がい児の早期発見と母子療育の推進のため
- 平成14年度 小中学校での特別支援学級補助員の配置
- 平成15年度 小中学校でのスクールライフサポーターの配置
- 平成17年度 精神薄弱児通園施設「大府学園」を改称し、発達支援センター「おひさま」として、指定管理者での運営を開始
- 平成18年度 小中学校での普通学級特別支援員の配置
- 平成19年度 ペアレントトレーニング及び個別の教育支援計画「すくすく」の開始
- 平成20年度 親子療育活動「桃山教室」を拡充した親子育成支援事業「ジョイジョイ」を開始

## 《気になるお子さん等への子育て支援の要請》

- 特に保育園や小学校(普通学級)で、個別に支援を受けたほうが良いと思われるお子さんが増加しており、落ち着きのあるクラス運営が困難になってきている。
- 医学の進歩で発達障がいが解明されつつあるが、診断名のつかない支援の必要なお子さんが急増している。
- 核家族化などで子育てが家庭で継承されなくなっている。また、仕事との両立で育児にかかる時間が少なくなり、子育てを重荷に思ったり、不安に思う保護者が増えている。
- 障がい児通園施設の定員が一杯という状況もあるが、気になるお子さんの増加や様々な特性を持つお子さんへの対応が必要となり、これまでのシステムでは対応ができなくなってきた。
- 早期発見し、お子さん各々の支援につなげるためには、一貫した支援システムの構築が必要となってきた。
- 障がいではなく、発達のゆっくりなお子さん、発達の気になるお子さんという発想がないと支援につなげないケースが増加している。

大府市における気になるお子さんへの子育て支援